めいろうこどもえん　12月園だより

２０１９年度　年主題〈イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で〉

0･1･2歳児12月主題　「喜ぶ」

月のねがい

◎イエス様のお誕生を喜ぶ
◎クリスマスの雰囲気を感じ楽しむ
◎保育者に見守られながら自分でできることが増える
◎冬の自然に触れ興味をもって遊ぶ

3･4･5歳児12月主題　「喜ぶ」

月のねがい

◎クリスマスの本当の意味を知りイエスさまのお誕生を喜び祝う
◎喜びや感謝・賛美を心を合わせて表す
◎イエスさまのみこころに叶った自分たちにできることを考え、心や手を動かす
◎世界の国々の人々のことを知る

今月の聖句「今日ダビデのまちであなたがたのために救い主がお生まれになった」

ルカ2：11

クリスマスおめでとうございます。日本では、平成から令和に変わった2019年でありました。あっという間に年末だ、と感じておられる方も多いのではないでしょうか。

クリスマスは、大いなる喜びです。それは「あなたがたのために救い主がお生まれになった」からです。ドイツで始まったアドベント・カレンダーは、12月の日付が窓のようになっていて、一日ずつその窓を開けていくと、救い主イエス・キリストの誕生を思わせる、様々な絵が出てくる仕掛けになっています。窓を開けていく毎に、クリスマスが近づいていること、その期待感を膨らませてくれます。

私たちは喜びをどのように表すでしょうか。感謝の言葉を伝える。品物でお礼をする。クリスマス・プレゼントもそのように生まれました。御子イエスを訪問した人たちに「東の博士たち」がおりました。この人たちは、本来占星術師です。そんな人たちが、わざわざ遠くからベツレヘムの御子イエスを訪ねてきました。そして「黄金、乳香、没薬」という高価な贈り物を、喜びのしるしとして献げました。今日では、それらの贈り物は、当時の占星術師たちが占いの道具として使っていた商売道具だということが分かってきました。商売道具を献げたということは、彼らはもう占い師を辞めたことを意味します。御子イエスの誕生を喜び、その表れとして商売道具を献げ、人生の生き方をも変え、星占いから神さまを信じて

１２月の行事予定

５日（木）	もちつき大会
７日（土）	クリスマス会（17:00~）
〃	弁当日
１１日（水）	１２月生まれ誕生会
１７日（火）	絵本の会ｸﾘｽﾏｽ公演
〃	ふれあい招待（13:00~）
２０日（金）	終園式（1号:午前保育）
２８日（土）	御用納め（弁当日）

１月の行事予定

４日（土）	御用始め（弁当日）
８日（水）	３学期始園式（1号:午前保育）
１０日（金）	１月生まれ誕生会（弁当日）
	父母の会役員会（12:30~）
２２日（水）	おゆうぎ会予行（弁当日）

担任の入籍についてのご報告

この度、すみれ組担任の山口優佳保育教諭が入籍し、篠山優佳となりましたので報告させていただきます。

１号認定児
入園申込み受付開始
１２月２日（月）
ご紹介を宜しくお願いします！

ありのままでいいんだよ

だんだん朝晩が肌寒くなり、冬の訪れを感じる頃になりました。私事ですが、昨年と今年は幼稚園教諭免許状の更新のためにいくつか講習を受けました。

その講習の中で、『非認知能力』というキーワードがよく出てきました。非認知能力とは、感情をコントロールする力や友だちと人とうまく関わる力、目標に向かって頑張る力など見えない力です。なぜ今非認知能力が注目されているかというと、日本人は引きこもりや不登校が増えており、乳幼児期に非認知能力を高めることで自己肯定感をもてるためだと学びました。そして、その非認知能力を高めるためには〝ありのままの姿を受け止められること〟が大切であるということでした。それを聞いて、めいろうこども園で行っているキリスト教保育の大切にしていることと同じだと感じました。

今年度がスタートして半年が経ち、子ども同士のトラブルが、この頃多く見られるようになりました。これは、今まで個々での遊びから集団での遊びになりつつあるからだと感じます。仲良くおもちゃで遊ぶには、「貸して」とお願いしたり、一緒に遊ぼうと提案したり、時には我慢したりします。けんかは相手がどう感じているのか、どうしたら一緒に遊べるのかを考えるいいチャンスだと思います。子どもたちのやりとりをしっかり見守り、子どもたちの気持ちに寄り添い、相手の気持ちを代弁して、少しずつ自分たちで解決する力が身につけるように支えていきたいと思います。毎日毎日の積み重ねで大きくなった時、挫けそうな時、心が折れずに前を向いて生きていける人になってほしいと心から願います。

さて、いよいよクリスマス会です。〝世界の始まりからイエス様のお誕生〟を全園児で演じます。お稽古では声がなかなか出なかった子もだんだん声が出てきて自信がついてきたように感じます。小さいお友だちもお兄ちゃんたちのかっこいい姿をじーっと見ながらお稽古に参加しています。人前では緊張してしまうかもしれませんが、どうぞ温かく見守ってください。

大河

～クリスマス会予行～

～消防サンタ～

～もちつき～

～みんな大好き!バイキング～

グレートギフト　～まことのクリスマス～

さすがに十二月ともなると、種子島も少し冬めいてきました。いつものようにサザンカのつぼみがたくさん膨らみ、一つ二つと花を開き始めました。相変わらず半袖Tシャツで走り廻っている子どもたちからは元気が溢れています。五月に改元された令和も、早いもので、あと一月で元年が終わるわけです。きらびやかな慶事の陰に、国内外や身近なところで、今年も様々な出来事がありました。

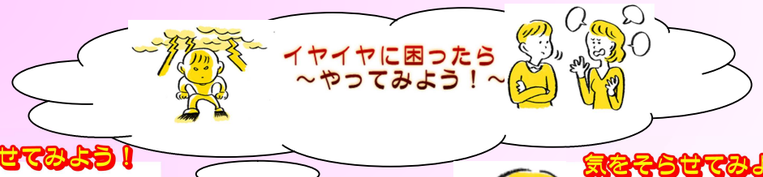
一九二〇年代前半の頃、アメリカのある家庭のお話です。不況の嵐で父親の事業は破綻し、仕事も見つからないままでのクリスマスイヴ。生きていくだけで精一杯で、クリスマスプレゼントなど準備する余裕はどこにもありません。みんな落ち込んだ気分でベッドに入りました。信じられないことに、クリスマスの朝に起きてみると、クリスマスツリーの下にはプレゼントの山が積まれていました。全員期待と興奮を隠しきれない様子で、包みを開けていくと・・・・。まずはお母さんの包みからは、何ヶ月か前に「無くした」古いショールが出てきました。父親は柄の壊れた古い斧をもらい、妹には以前に履いていた古いスリッパ。弟の一人にはツギの当たったしわくちゃのズボン。そして、兄にはよれた帽子―前に食堂に忘れてきたと思っていたもの。・・・それは、一番下の弟の仕業でした。何ヶ月もの間、無くなっても騒がれそうもない品をコツコツ隠していたとか。そして、イブの夜に、家族が寝静まってからこっそり包んで、ツリーの下の置いていたのです。最愛の家族への贈り物として。（戸田智弘著「座右の寓話」より）

ネガティブ・ヴィジュアリゼーションという心理的な手法があるそうです。いま自分が大切にしているものを失った悪い事態を想像することで、「自分はすでに幸福である」と確認するテクニックです。たとえば、自分の周りにいる人たち（家族や友人）、自分が持っている物（家やお金）、自分が持っている能力（健康や知力）を失ったらどうか。私たち人間はつい、今持っていない物を欲し、手に入らないことにため息をつくもの。すでに持っているものに目を向け、それが無くなったらどれだけ辛いかを想像するのです。生まれてから、あらゆる場面で与えられる有り難きものに感謝を持てる人生を歩みたいものです。現代科学の恩恵を享受していることも事実ですが、心の平安を与えられることこそ真の恵みではないでしょうか。

クリスマスから始まったキリストに関する一連の出来ごとは、天からの有難い「ギフト」そのものです。この時代に弱者・貧者の代表であった羊飼いに、最初にイエスの誕生の知らせがあったことに大きな意味があります。ク

イヤイヤに困ったら ～やってみよう！～

心理士：木口屋



笑わせてみよう！

日々の生活に“笑い”を！
子どもたちはお母さんの笑顔が大好きです。
お子さんの笑いのツボは何ですか？

気をそらせてみよう！

お子さんが今こだわっていることとは全然違う話をし続けてみましょう。
お店での「買って買って攻撃」の時等にも効果的です。

抱きしめてみよう！

心はイエス（Yes）なのに
体がノー（No）の行動をしてしまう…
子どもも葛藤しています。
抱きしめることで体のNoが弱まって、心のYesに従いやすくなることも多々あります。
何より、お母さんとのスキンシップが安心できるでしょう。

待ってみよう！

お子さんの感情が爆発しているような時には、お母さんもそこから距離を置いてみましょう。
自分の気持ちを自分でなだめる術を学び始めている時でもあります。
つかず離れず見守って、静かになれたら“ほめて・はげまして・笑わせて”みましょう。